

クマタカ

Spizaetus nipalensis orientalis
Temminck et Schlegel

タカ目
FALCONIFORMES

タカ科
Accipitridae

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 IB

選定理由 生息地である森林の伐採・開発や、針葉樹への樹種変換などにより、エサとなる動物が減少し、生息環境が悪化している。営巣木となる高木が減少している。また、剥製や飼育のための捕獲圧も高い。

県内分布 県内全域の森林部に生息する留鳥。

分布域 北海道、本州、四国、九州の山地の混交林に生息する留鳥。中国南部、台湾で繁殖、留鳥。タイ、マレーシアで越冬。日本に生息する亜種は日本固有亜種。

生息環境 山地のよく茂った森林に生息し、ノウサギ、ヤマドリ、小鳥類を捕食する。巣は針葉樹の高木に造る。

現 状 県内の生息個体数は、数十羽程度と推定される。剥製や飼育のために捕獲され、県内の密猟グループが摘発された事例がある。

備 考 日本に生息する亜種クマタカは、国内希少野生動植物種、種クマタカは、ワシントン条約附属書Ⅱ

イヌワシ

Aquila crysaetos japonica
Severtzov

タカ目
FALCONIFORMES

タカ科
Accipitridae

カテゴリー

大分県 IA
環境庁 IB

選定理由 全国に400～500羽程度生息するが、九州、四国、中国地方西部では生息個体数が少なく、絶滅の危機に瀕している。森林の伐採、開発などにより全国的に生息数、繁殖率が低下している。県内には1ペアが生息するのみであるが、繁殖活動がみられなくなっている。

県内分布 くじゅう山系に生息する留鳥。

分布域 北海道から九州の低山から高山に生息する留鳥。朝鮮半島で留鳥。中国東北部では冬鳥。シベリア北部では夏鳥。シベリア南部では留鳥。

生息環境 山地の森林と草原が組み合わさった環境に生息する。崖地の岩棚などに営巣し、開けた場所で、ウサギ、キジ、ヘビなどを捕食する。

現 状 県内には1ペアが生息するのみで、しかも発見された1983年以降、一度も繁殖に成功していない。1996年以降は営巣活動が見られなくなった。大分は南限であると思われていたが、1999年に宮崎県で1羽の生息が確認されている。

備 考 亜種イヌワシは、日本と朝鮮半島の固有亜種で、国内希少野生動植物種、天然記念物。種イヌワシは、ワシントン条約附属書Ⅱ

チュウヒ

Circus spilonotus spilonotus
Kaup

タカ目
FALCONIFORMES

タカ科
Accipitridae

カテゴリー

大分県 IB
環境庁

選定理由 全国的に個体数は非常に少ないが、河川改修、開発などにより広い湿原、アシ原が激減しており、生息に適した環境が少なくなっている。県内でも越冬個体数が減少している。

県内分布 全域の海岸部のアシ原に希に飛来する冬鳥。

分布域 北海道、本州中北部では少数が繁殖。本州中西部、四国、九州、琉球諸島の海岸部のアシ原に冬鳥。中国東北部、シベリア、サハリンで繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 湖沼、河川、海岸の周辺にある広い湿原、草原、農耕地に生息する。アシ原の上を周回しながら、ネズミやカエルなどの小動物を捕食する。

現 状 県内の越冬個体数は10羽未満であると推定される。

備 考 ワシントン条約附属書Ⅱ